

# CT肺気腫検査

## 肺気腫とは？

酸素と炭酸ガスの交換を行っている「肺胞」の組織が壊れ、肺にたまった空気を押し出せなくなる病気です。また、肺胞は一度壊れてしまうと手術をしても薬を飲んでも、弾力が戻ったり、肺胞壁が復活することはありません。

肺気腫は慢性気管支炎などと共に「慢性閉塞性肺疾患(COPD)」と呼ばれています。

## 肺気腫になると？

肺気腫の初期はほぼ無症状です。肺が空気を押し出せなくなると、息を吸うことができないので、息切れをします。肺にはガスがたまったままになり、膨張していくので、心臓などの他の臓器を圧迫するようになります。症状が現れる頃には病気はすでに進行していることが多いです。

肺気腫は重症化すると24時間酸素ボンベをつけていたり、好きなものが食べられず、点滴や流動食で栄養を摂るだけだったり、外出は通院だけなどの生活はかなり制限されてしまいます。

## 肺気腫の治療

もとの健康的な肺に戻す治療法は現時点ではありませんが、症状の軽い早期に発見して生活環境から原因物質（タバコ等）を排除し運動療法などのリハビリテーションを行うことで症状の悪化、日常生活の質の低下を防ぐことができます。早期に発見し適切な対処をすれば症状は軽くて済みます。早期発見、早期治療が大切だといえます。

### 【レポートの説明】

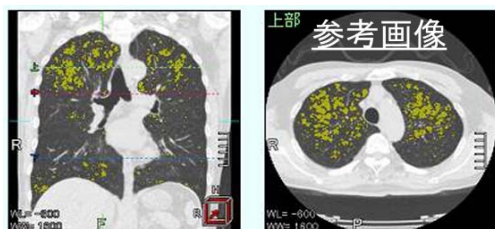


**\*\*画像はすべて参考のものです\*\***

左上はCT画像を立体的に構築したもので  
左中はCT画像の横断と冠状断というものです。

← 画像の青色部分が右肺、赤色部分が左肺、  
緑色部分が気管支です。

黄色部分が肺気腫の部分です



← 左上同様にCTの画像に肺気腫の部分を  
黄色で示したものです。

	合計点	目安
	0	該当なし
→	~7	軽症
	8 ~ 15	中等症
	16 ~	重症

← 左右それぞれの肺野の上肺野、中肺野、下肺野  
の6か所における正常部に対する肺気腫部の割合  
に点数をつけて、その合計点にて重症度を分類  
します。

黄色矢印が該当部になります。